

おばちゃんち



140-0001品川区北品川2-28-19 品川宿交流館3階 TEL03-3471-8610 E-mail:fureai@obachanchi.org http://obachanchi.org/ 発行：2017.01

喜びのタネがまかれるまちへ

ふれあいの家ーおばちゃんち 代表理事 幾島博子

11月頃ネットで話題になっていた神戸新聞の読者投稿記事。「知らない人に挨拶されたら逃げるように教えているので、挨拶はしないで欲しい」とマンション総会で発言した親の意向と、「挨拶をしても返事がなく気分が悪い」という年配の方との意見が一致して、住人同士でも挨拶はしないというルールになったというのです。体感治安の不安感が強くなってきている都会の生活では、このように考えてしまう親がいることは想像がつかます。学校でも「知らない人とは口をきかないようにしましょう」と教えているのですから。また、挨拶をしても無視されることを不快と覚えることも理解できます。しかし、このルール化以外に何かよい方法は、なかったのでしょうか。

さて、おばちゃんちが運営する預かり保育の場では、目の前の道を行きかう人からガラス越しに様子が見えるようになっており、窓越しに子どもとのふれあいを楽しみにしている年配の方や小学生が毎日のように訪れます。また、北浜こども冒険ひろばは、生活道路として通り抜けて行く地域の方が多く、スタッフは通り抜けるみなさんにできる限り挨拶をしています。そんな声かけがきっかけとなって、毎日ベンチに腰を下ろして子どもの様子を眺めるようになった方や、自宅で不用になった物を持ってきて下さる方もいます。いずれも地域の方に見守ってもらい、子どもが育つ様子をまちが感じ、いっしょに喜んでもらうことで、私達も安心して活動ができていくということです。



顔を合わせるたびに挨拶をすればそのうちに天気やたわいない話題でお話をするようになり、人となりがわかってきます。挨拶をしないということは、顔は知っていたとしても、互いに興味を持たないということ、「大きくなったわね」という子どもの成長を喜び合う関係もなければ、ましてや困った時に助け合う関係など作らないということになります。

そうではなく、近所の方々と挨拶をして顔なじみになり、少しずつ信頼関係をつくり、地域みんなで子どもの育ちを喜びあい、子どもを危険から守ろうとする関係を作っていきたいものです。そんなまちには、元気な子どもからたくさんの喜びのタネがまかれるに違いありません。

ご寄付ありがとうございました (11月末日現在)

川上和宏さま、宮里純美さま、山田巴さま、中村日登美さま、
他匿名希望8名、(順不同)

会員情報 (11月末日現在)

正会員 35名
支援会員 391名
賛助会員 6名
432名

年会費・ご寄付は

郵便振替
00120-3-583720
NPO法人ふれあいの家-
おばちゃんち

第9回 つたえる・つながる・めぐりあう 一子どもといっしょに広がる世界

品川子育てメッセ2016

2016年11月11日、第9回品川子育てメッセをきゅりあんにて開催しました。今年も実行委員会と品川区、ふれあいの家—おばちゃんちの三者の共催で、様々な子育て情報や出会いの機会を2,600人もの方々にお届けすることができました。



今年のテーマは、“ホッ!とひといき”

なかなか外出の一步が難しい0歳児のママや、あちこち動き回る子のママたちも、会場に来て情報を受け取り、なおかつホッ!とひといきついでてもらいたい! そんな思いを込めました。当日は あいにくの雨模様でしたが、来場いただいた方々には満足いただける会場づくりができたのではないかと感じております。

今年がらりと会場のレイアウトを変更し、各会場に「ひろば」を設置しました。7階イベントホールには、「わんぱくひろば」「ねんねひろば」「もぐもぐひろば」を設置。中心にマットをしき、出展団体がひろばをぐるりと囲うように配置しました。6



▲6階「遊びひろば」



▲7階「ねんねひろば」

階もまた、各部屋、出展団体と来場者の距離が近くなるようにひろばを設置しました。去年同様「遊びひろば」として子どもたちが思う存分体を動かせるスペースをつくと共に、ミニステージと飲食可能スペースも同じ部屋につくり、子どもたちが遊ぶ傍らでステージの内容を聞くことができるような空間にしました。「おっぱいミルクひろば」として主に0歳児のママを対象とした授乳可能スペースを確保しました。ここでは助産師さんなどへ直接相談もできたり、授乳服の試着や鍼灸の施術の体験もできるなどゆっくり過ごせるお部屋に



▲6階「おっぱいミルクひろば」



▲7階「わんぱくひろば」児童センターから、おもちゃがやってきました!

なりました。ひろばと各出展団体との垣根を少しでも低くして、来場者が情報を受けとる傍らで子どもたちののびのび遊んだり、のんびりしたりできる会場づくりを目指しました。

また、特別講演会として、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会の理事を務める天野秀昭さんに、「乳幼児期に大切にしたい心と身体を育む遊び」についてお話していただきました。遊び場の脇に設置したステージでの講演でしたので、お子さんにも大人も楽しみながら参加でき、たくさんの来場者がうなずいていました。

▼6階「ミニステージ」天野さん講演会



ながら参加でき、たくさんの来場者がうなずいていました。

1階小ホールは「おとのひろば」

と題し、毎年大人気のコンサートを開催しました。

総勢52ブース63団体の出



▲1階小ホール「おとほのひろば」

展団体のみなさんが積極的な力添えをくださり、各会場、来場者が楽しみ、ふれあいながら生きた情報を受け取れるイベントとなったと思います。実行委員の経験自体が初めてで、乳児を抱える委員が多いながらも、来場者を包みこめるように思いを共有し、あたたかい雰囲気をつくれるように準備を進めてまいりました。

開催しました



▲7階ワークショップ

準備から当日まで、出展団体に加え、30名を超えるボランティアの方々にもご協力いただき、あたたかく、安心できる場づくりができました。

情報も子育て環境も変化し続ける現代に、1人でも多くの方に役立つ情報を届けたいという変わらぬ思いを形にして10回目となる次回も、「共催三者と出展団体とが共に作り上げるメッセ」を目指したいと思います。これからもよろしくお願いたします。

(実行委員長
長山摩美)



▲実行委員の手づくり「公園マップ」



▲オープニングは「ニコリ音楽隊」の演奏から！



▲来場者プレゼントを演野区長から

次回予告
2017年秋、
きゅりあん。



©品川子育てメッセ

活動報告

ひもうせんロード

“みちをあそぼう！”を合言葉に、品川宿交流館前の旧東海道で「ひもうせんロード」を行いました。第2回2016年7月31日(日)には、水不足の中、期限切れのペットボトル水を提供していただいて、手づくり「ウォーターライダー」が登場！空きペットボトルも子どもにかかればあそびを演出する道具になりました。また、地元消防団のご協力で火事や災害時に備えた防災体験コーナーを設けました。第3回の11月13日(日)は、品川宿忍者修業の旅との同時開催。通行止めの道路に忍者や隠密が行き交い、とっても賑やかでした。これからもこのみちあそびを長く続けていく「ひもうせんロードやり隊」を大募集します！

盆踊り大会お手伝い

2016年8月27日(土)、28日(日)、北品川二丁目町会主催の盆踊り大会が行われ、おばちゃんちはくじ引きコーナーのお手伝い



をしました。雨の合間を縫っての盆踊り大会は、世代を超えて盛り上がりました。このあと冬には、お餅つき会などをお手伝いする予定です。

にじっこコンサート

2016年8月28日(日)、きゅりあん大ホールにて実行委員会との共催で行った「第5回にじっこコンサート」(出演：新沢としひこ/ケロポンズ/山野さと子)には、約800人も親子連れが来場しました。今回も収益金から必要経費を差し引いて、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会の東日本大震災被災地復興支援活動へ寄付しました。

ホットほっとHOT

2016年9月25日(日)、北品川児童センターで、親子のお休み処「ホットほっとHOT」を開催しました。おばちゃんちが15年前に誕生したときからしばらくの間、毎月ここにみんなで集まりましたね。その頃よく来ていた懐かしいお顔もちらほら。乳幼児は小中学生になり、ヤングスタッフはママやパパになり…他にもおばちゃんちにご縁のある乳幼児親子や小学生連れまで、約70人の方々がホットひといき、授乳やおむつ替え、食事、親子での遊びなど思い思いに過ごしました。

まなぶ

～スタッフ研修報告から～

おばちゃんちは親支援講座や子育てサポーター養成講座などを主催する一方で、保育の現場などで活動するスタッフが、自主的に様々な研修に参加できるようにしています。

東京都認可外保育所職員研修

(主催：東京都福祉保健財団)

「乳幼児の健康管理」というテーマで研修を受けました。細菌やウイルスもすべてが病気の元になるわけではなく、体を守ってくれる菌もある、必要以上に消毒や清潔にすることに気を使うより、人には自然治癒力があるのでいつもと違う事に気が付く事が大事だということを学びました。保育をしている子どもたちの様子を気をつけて見ていきたいです。(湯田)

アレルギー疾患研修

(主催：東京都健康安全センター)

ぜん息・食物アレルギーについての最新の知識と万一の際の緊急時対応を学びました。初めての参加でしたが、食物アレルギーについて正しい知識を持つことの重要性、思い込みや情報に振り回されてはいけないことがよくわかりました。エピペンの使い方講習では実際に訓練用エピペンを使用し打つ練習をしました。子育て支援に関わる者として、また親としても大変勉強になりました。(に)

東京都子育て支援員

(主催：東京都福祉保健財団)

東京都子育て支援員の放課後児童コースを受講しました。この講座は東京都の公式webページなどでも広く募集されており、定員超過の場合は抽選になります。

希望者多数のためか、今年度より年2回開催されるようになったそうです。小学生の発達、「子どもの権利」やプライバシーの守秘義務などについて、広く学ぶことが出来ました。(く)

P・F・A研修

サイコロジカル・ファースト・エイド
(主催：TOKYO PLAY)

子どものためのP・F・A(心理的応急処置)は、大規模災害や事故に直面しストレスを抱えている子どもへの心の応急手当て、誰にでもできる心理社会的支援です。今回の研修で、P・F・Aはプレイワーカーとして日常、子どもや大人と接していく中での心的なかかわりにおいても大事なことであり、通じる部分が多いものと感じました。また、参加者の方々もプレイワーカーをはじめ、子どもに関わる職種の方も多く、一日を通して学ぶ中で交流もでき、大変有意義な研修でした。(金井)



10月23日(日)、子育て交流ルーム品川宿おばちゃんち「ほっぺ」の10周年を祝いました。当日はお祝いの日

方々との、数年ぶりの再会。当時のことを振り返りながら、それぞれ近況報告しあい、「ほっぺが自分の再出発の原点でした」



にふさわしい、秋晴れの日でした。

この10年の歩みの中では、コミュニティカフェ街猫や誰もがいつでも集える庭のある場所からの引越、昭和通りおばちゃんち「わっこ」オープンなど、いろいろな事がありました。1周年、3周年はささやかに、そして5周年は大きな節目として盛大にお祝いしましたが、10周年の今年は、賑やかなこと好きだったみこちゃん(前代表理事:渡辺美恵子)の気持ちも考えながら、開所時からほっぺに関わってきた方々とのおしゃべり会にしました。

一緒に活動を楽しんできた懐かしい

子育て交流ルーム 品川宿おばちゃんち 10周年を祝って

「みこちゃんとお会いして、魅力に惚れ素敵な人生の転機でした」「ほっぺで楽しい時間が過ごせたから、家庭に帰っても家族にも優しくできています」「ほっぺでの出会いは自分の財産です」「ほっぺは子どもや

利用者気持ちよく向き合えることが出来る唯一の場所」等々、おばちゃんちでの出会いが素晴らしかったことを紹介してくれて、ホントに素敵な居場所であることを再認識しました。

ほっぺは、皆さんと共に、これからも益々ホッとできる素敵な場所であり続けたいと思います。(うーちゃん)





里親を知っていますか？

←Vol.30の
続きです

子どもを地域のみんなで見守り育てようと声かけが始まって久しいですが、『子ども』とひと言で言っても、子どもの置かれている家庭や環境は千差万別です。中には、実の親と一緒に暮らせない子どももいます。そんな実の親と暮らせない子どもを児童福祉法に基づき、里子として預かり、家庭で育てている人を里親といいます。

(里親制度は、各都道府県の児童相談所が管轄しています。)

おばちゃんちのおばちゃんおじちゃんの中にも、里親として活躍している方や経験のある方、『機会があればやってみよう』という方、いろいろな方がいらっしゃいます。しかし、一般的に「里親・里子」についてはなかなか知られていないことも多いようです。

Q1 東京都内に、親と一緒に暮らせない子ども(0歳~18歳)は、約400人程度いる。

Q2 親と一緒に暮らせない子どもの約1割が里親のもとで暮らしている。

Q3 里親の元で生活できるのは里子が成人する20歳までだ。

Q4 品川児童相談所の管轄内(品川区・大田区・目黒区内)には、里親家庭(養育家庭)は約30家庭が登録されている。

Q5 里親は、夫婦でなければ出来ない。独身では出来ない。

Q6 里子の生活費は実親が負担するので、里親は負担なくてよい。

Q7 長期に里子を預かる里親だけでなく、学校の長期休みや週末だけ預かる制度もある。



©Yoko Takahashi

さて、何問ぐらい正解できたでしょうか？東京都では「養育家庭」のことを『ほっとファミリー』という愛称で呼んでいます。♥のマークのロゴ、どこかで見たことがあるでしょうか？ポスターが児童センターなどに貼られています。探してみてくださいね！

(寄稿・まえ)

A1 × 都内には親と一緒に暮らせない子どもが約4000人います。*1

A2 ○ 約4000人の子どものうち約1割(約400人ほど)が、里親家庭で暮らしています。残りの2割がグループホーム、7割が児童養護施設(乳児院を含む)で暮らしています。*1

A3 × 児童福祉法で児童は18歳までとされているため、基本的に18歳で委託解除となり、里親宅を離れ、就職や進学の道に進みます。実親の元に戻ることもあります。また、18歳になる前に、実親の元に戻ったり、施設に戻る子どももいます。*2

A4 ○ 養育家庭は約30家庭、登録されています。里親には、養育里親、専門養育里親、親族里親、養子縁組里親の4種類があります。養育家庭とは、養子縁組を目的とせず一定期間養育する里親の家庭です。

A5 × 独身でも大丈夫ですが、独身の場合は、養育経験があること又は保健士、保育士、看護師等の資格があること、養育を補助する20歳以上の同居家族がいること、などいくつかの条件を全

て満たす必要があります。*3

A6 × 委託費と言う養育に必要なお金(生活費など)が都から支払われるので実親及び里親の負担はないという事になっています。幼稚園の通園費、小中学校の給食費、教材費・修学旅行の費用などは実費が一定額が支給されます。また、高校に進学した場合は学校への納付金、教材費、通学費などが支給されます。ただ、塾の費用はOKだが、家庭教師はNGというように、細かな規程があります。

A7 ○ 東京都ではフレンドホーム制度という、週末や長期休みだけ子どもを預かる制度があります。申込・問合せは、各児童養護施設・乳児院が窓口となります。

*1 東京都社会的養護施策推進計画 東京都福祉保健局 平成27年より

*2 『児童相談所における里親委託及び遺棄児童に関する調査』全国児童相談所長会 平成23年より

*3 東京都里親認定基準(養育家庭)より

▼おばちゃんちニュースレターvol.30はこちら
<http://p.booklog.jp/book/99954/read>



私たちが帰ってくると、まちが騒然としています

子どもたちが口々に何かを叫び、議場を取り囲んでいました。

ここはミニミュンヘン。7歳から15歳までの子どもが運営する子どものまち。8月の夏休み期間3週間だけ誕生する仮設都市です。ドイツのミュンヘン市ではすでに30年以上の歴史があります。2000人の子どもたちが毎日来場し、200人以上の大人のボランティアスタッフ（それぞれの専門家と学生ボランティア）がまちを支えています。

このまちで子どもたちは働き学び(どの仕事をやっても学んでも1時間税引き4 MiMueだそうです)、生活をします。



▲開場を待つ長蛇の列
希望の仕事につきたいと走りこんでくる



まちはいくつかのエリアに分かれています。お店や会社、レストランなどがあるエリア、屋外で家や遊び場を作っているエリア、



▲アカデミーの授業掲示板



▲市民として、積極的に意見を表明する

そしてアカデミー。

このアカデミーでは子どもが先生になって教えることもあれば、専門家が先生になって教える授業もあります。私たちもここで授業をしてほ

しいということになり、「忍者修業」の授業をすることになりました。

この授業を終え、まちに戻ってきたとき、騒然としたまちに出会ったので

す。話を聞くと最初は2人の子どもがポリスボックスをたたき「警察しっかりしろ！」と言っていたそうです。警察がしっかりしないから、犯罪が多いという主張でした。そこに賛同する子どもたちが現れ、やがてデモへと発展していったのです。

このデモに対応したのは15歳の市長タミーナ。市長の説得でデモは収束し、子どもたちは議場へと入っていきました。議場では白熱した論議が交わされていました。親指を下にしてブーイング。(左上写真)やがて拍手。そして再びまちは日常を取り戻していきました。

この様子に私は衝撃を受けました。日本であればデモは反社会的行動と見られてしまいがち。そしてこんな場面では、大人が運営者として前面に出してしまうのではないのでしょうか。



▲子どもの写真スタジオで

▼まちの中には様々な仕事と学びが



▲市長のタミーナ

しかしここではデモも選挙と並んで民主主義の根幹として大切にされているのです。社会体験を目的に作られた大人が運営する他の子どものまちとは違って、ここには子どもたちの自治があるのです。ミニミュンヘンを運営している Kultur&Spielraum e.V.

(NPO文化と遊び空間)の事務局長マーギットさんは言います。「子どもは大人の操り人形ではない。枠組みを作る。設定を考えるのが大人の役割」

次の週の火曜日

ミニミュンヘンは毎週火曜日に選挙があります。現市長のタミーナは今まで長く再選を続け、15歳の最後の夏休みなので他の仕事も楽しみたいと再出馬しないことを宣言していました。議場を訪れると「マクシミリアン!」「マクシミリアン!」と声が響いていました。選挙演説が始まっていたのです。とても人気が高いのだなとみていると、声を上げている



▲警察署を代表してきたマクシミリアン

▼事務局長マーギットさん



のは警察のユニフォームを着ている子どもたちがほとんど。そう、マクシミリアンは警察署を代表して出馬してきたのです。先週のデモで糾弾され、悔しい思いをした警察は結束力が高まったのでしょうか。熱狂的な応援が繰り返されていました。さらにマクシミリアンはイケメンで弁舌さわやか。人気は出る

でしょう。対抗馬はいないかと思われた時、色とりどりのテープで作ったボンボンを持ったグループが入ってきました。そして壇上に立っている女性を応援しました。テレビ局からの代表だと言います。マスコミ対警察。選挙は面白くなってきました。しかし気がつく、この候補者を盛り上げようとしているのは大人の男性。テレビ局のスタッフでした。これはマクシミリアンが圧勝だと思っていたのですが…なんとこの2人が同票になったのです。ところがこのテレビ局の女性はとても賢いのでしょうか、マクシミリアンに市長の座を譲ると言うのです。「今市政で大切なのは警察の改革」という思いがあったのでしょうか、もし1週間かかって改革されなければ、次の市長は自分という確信もあったのではないのでしょうか…



▲テレビ局の応援。前の大人があおっている

そして次の週は…とお話したいところですが、私達は帰国してしまったので、残念ながらお伝えすることはできません。(^o^)さてどうなったのでしょうか…いずれにしても、これこそがミニミュンヘン。社会そのものが子どもに任されているのです。そして大人は見守り、相談を受ければアドバイスをして応援しているのです。子どもの自治のあるまちなのです。



▲キャッシュデイスベンチャー(中人がまわっている!)

ミニミュンヘンの歴史は1972年ペタゴギークアクションのプレイバスで始められた遊びのまちごっこ 銀行ごっこからです。1979年国際児童年を記念してその活動の集大成として、オリンピックスタジアムを使って行われたのが、最初のミニミュンヘンです。さらに1985年国際青年年を記念して第2回ミニミュンヘンが開かれました。1986年以降2年おきに続けられています。2015年にオリンピックスタジアムから工場跡地になり、私が訪れたのは変ってから2回目のミニミュンヘンです。



おばちゃんち かつどうよてい



おばちゃんちからのお知らせは、twitterやfacebookでもチェック！ <http://obachanchi.org/>



おばちゃんちのふたつの子育て交流ルームでは、毎週月曜日にふれあい広場を開催しています。どうぞ親子でおでかけください。栄養士による食育相談、保育士、臨床心理士、社会福祉士による相談などもおこなえます。

- 1.開催日：毎週月曜日（祝日を除く）
- 2.時間：11時から15時
- 3.参加費：1家族100円

「みこちゃんち」

会場：品川宿おばちゃんち
(北品川2-19-6)

「しょうちゃんち」

会場：昭和通りおばちゃんち
(西中延2-18-1)

「北浜こども冒険ひろば」

- 1.開催日：月～土曜日（祝日を除く）
 - 2.時間：14時から18時
※第1・3水曜日は11時から
 - 3.会場：北浜公園・北浜こども冒険ひろば(北品川2-28)
 - 4.参加費：無料
- 北浜だよりを毎月発行、近隣区立小学校などと品川区内の児童センターで配布しています。

ほっと・サロン@八潮「にじっこ」

- 1.開催日：祝日を除く毎週木曜日
- 2.時間：13時半から15時半
- 3.会場：こみゆていびらざ八潮1F託児室(八潮5-9-11)
- 4.参加費：1家族100円（初回無料）



「品川宿忍者修業の旅」

- 1.開催日：4月/11月
2017年4月の開催日については、3月ごろwebをご覧ください
- 2.時間：13時から15時半
- 3.会場：北品川商店街周辺
- 4.参加費：無料

サポーター派遣保育

えくぼ

自主サークルや団体が講座や講演会などを行っている間のグループ保育に、おばちゃんちの認定保育サポーターを派遣します。活動の主旨などにより利用条件が異なります。詳しくはお問い合わせ下さい。

ほっぺ わっこ

子育て交流ルーム
「品川宿おばちゃんち」
tel.03-5463-6458
北品川2-19-6

子育て交流ルーム
「昭和通りおばちゃんち」
tel.03-5749-3212
西中延2-18-1

月曜から土曜までの、9時から17時までやっています（土曜日は預かり状況で変更することがあります）。おばちゃんち年会費2500円で両方の施設をご利用いただけます。4時間以内の基本保育料は品川区在住在勤の方は1時間500円で、延長保育は1時間600円になります。区外在住の方等、詳しくはお問い合わせ下さい。

あずかり
広場

2017

3月12日

あそびをうたおう

場 所 スクエア荏原 ひらつかホール

開 演 13:00～

参加費 一般1,500円/学生500円/中学生以下無料

共 催 あそびうたフェスティバル実行委員会
NPO法人ふれあいの家-おばちゃんち

問合せ メール asobifes@gmail.com
NPO法人ふれあいの家-おばちゃんち

うたちゃん